

農地保全と規模拡大に伴う経営安定化プラン

八頭町

実施主体：大村 祥一郎

1. はじめに

現在、私は、八頭町 地区で水稲作を中心に農業を営んでいます。平成13年2月には認定就農者の認定を受け、就農して約10年が経とうとしています。当時は果樹農家として就農していましたので、耕作面積も少なく自作地を合わせても約1haほどでした。その後、近隣の農家から「うちの田んぼも作ってほしい」との声があり、少しずつではありますが、耕作面積を増やしていきました。

「田んぼを作ってほしい」との要望が多くなり、経営的にもまだ安定はしていなかったのですが、両親の退職により人手ができ、今後の経営の安定化につながればと思い、高齢等で耕作できなくなった農地や何年も耕作していない農地を紹介してもらい、規模拡大を行ってきました。それに伴い、営農計画の変更を受け、果樹農家から水稲農家になり、平成19年には籾の乾燥調製施設を建設し、乾燥機等の導入も行い、同時に経営主を父から私に移行しました。

平成20年6月には八頭町の認定農業者の認定を受けました。それ以降、農地の保全管理に努めて行こうと考え、現在に至っています。

現在は、規模も少しずつではありますが、拡大をしており、今年は約12haの作付けを行っています。販売面では、個人の消費者と大口である小売店との販売先を確保しており、順調に販売量は伸びています。また、消費者のニーズに答えるとともに自分自身の栽培技術の向上を図りたいと思い、平成20年度から県の特別栽培（減農薬・減化学肥料栽培）の認証を受け、環境にやさしい農業に取り組むとともに、「安全・安心」でおいしい米作りに努めています。そのおかげで消費者の方々からは「安心して食べられる。」と評判がよく、大口である小売店での需要が増えており、現在の我が家の生産量では間に合っていないのが現状です。さらに、近年では米価の下落により、小売店でも出荷を行ない始めた頃に比べ、値下げを要求され、その下落分を補い、経営を安定化するためには、規模拡大を行わなければなりません。今後も、高齢化の進行、後継者不足により不耕作地の増加が見込まれます。

このような状況の中で、農地をできるだけ集約し、水稲の作付だけでなく、農地を有効利用しながら地域の農地保全に努めていけたらと思っています。また、これから先は、更なる収入の増加を見据えて、家族や親戚等の協力を得ながら、米の出荷量を確保するとともに、販売先の開拓を行って、経営の安定化を図って行き、地域農業を担っていける模範農家となるよう頑張りたいと考えています。

2. 農業経営の現状と課題

1) 農業経営の現状

平成23年現在

	水稲	果樹	受託作業			合計
			田植え	稲刈り	籾乾燥	
面積 (a)	1,030	40	128	373	1,069	
収入額 (%)	66.5	22.0	11.5			100

2) 現在の生産、経営の課題

(1) 米の収量及び品質低下

経営の柱が米づくりということもあり、「安全、安心なお米」をと特別栽培農産物の県認証を受け、極力農薬、化学肥料の使用を控えています。そのことにより、個人の消費者、大口である小売店から「安心して食べられ、おいしい」と評価され、販売も安定しています。しかし、耕作面積が増えている中、現在使用している4条田植機では、田植終了まで約12日程度かかっています。そのため、除草剤散布と機械による除草作業が遅れぎみになり、除草効果が上がらないほ場があり、雑草の発生による収量低下もみられ、十分な出荷量を確保できていません(H23出荷量:37t)。

また、自作地分と受託分の刈り取りを、現在使用している3条刈りコンバイン1台で対応していますが、耕作面積が増える中、作業能力が低く、品種の約9割がコシヒカリに集中していることもあり、刈り終わるまでに約20日間(9/20頃~10/10頃)かかり、刈り遅れぎみとなっています。そのために、品質の低下が著しく、平成21年産米まではほぼ全て1等米だったものが、平成22年産米からは全て2等米に格落ちしています。

さらに今後も耕作面積が増える計画であり、3条刈りコンバイン1台では作業能率が上がらないため、ますます刈り遅れが進むものと思われます。

(2) 販路の開拓

現在、個人の消費者(小口)と小売店(大口)と販売先を確保しています。消費者の方々からの評判が良く、小売店での需要が増えているため、現在の生産量では間に合っていないのが現状です。

(3) 農地の確保

一時期「耕作してほしい」との声があり、就農時の水稲作付目標面積(平成23年度に10ha)に対して、平成23年度の作付面積は10.3haで、特別栽培に取り組みながら目標を達成してきました。今後も規模拡大を計画していますが、近年はこのような声も少なくなり、さらなる周辺農地の確保が困難になっています。

(4) 受託作業収入の伸び悩み

コンバインによる刈取りは、例年降雨等により作業が長引き、現有3条刈りの機械では作業能力が劣るため、自作地分の作業が遅れぎみとなっています。そのため、刈取りの受託作業が受けられない場合もあり、受託での収入が伸び悩んでいます。

3. 目標達成のための具体的な取組みと改善内容、効果

経営の安定化を図るため、規模拡大を行なう。また、水稻の収量・品質向上対策として、除草作業等の管理を徹底すると共に、品種構成の検討を進める。また、規模拡大に伴い、田植えや稲刈り作業の効率化を図り、そのための雇用を確保する

1) 水稻の収量及び品質向上対策

(1) 栽培管理作業の徹底、品種構成の検討

遅れがちだった初期生育を良くするため、昨年まで行っていた油かすだけの栽培方法を止め、即効性と緩効性の成分が入っている肥料に変えるとともに、雑草による収量低下を改善するため、除草剤散布と機械除草とを組み合わせた作業の徹底をします。

また、現在作付けの大半がコシヒカリとなっている中、コシヒカリよりも収穫時期の遅い品種「きぬむすめ」等の作付けを検討し、作期の分散をするとともに、品質の維持・向上（1等米比率の向上、食味向上：食味値80→85）を図ります。

今後もこれらの取組みについて検討を進めつつ、引き続き特別栽培を実践することで消費者の方から「また、おいしい米を食べたい」と言われるよう頑張っていきます。

	現状 (H23)	H24	H25	目標 (H26)	H27	H28
1等米比率 (%)	0	40	50	60	70	80
出荷量 (t)	37	45	46	50	52	55

(2) 作業の効率化

ア 田植作業の効率化

現在使用している4条田植機より作業能力の高い6条田植機（H24.6月に自己購入済）を導入することにより、田植期間を2～3日短縮できます。そのことにより、次の除草剤散布及び機械除草作業への早期対応を行い、除草効果の向上につなげます。

イ 刈取り作業の効率化

現在使用している3条刈りコンバイン1台に加えて、さらに4条刈りコンバインを新規導入することにより、1日の刈取り面積も増え、適期刈取りができます。また、オペレーターをつけて2台で刈取ることにより刈取りの受託作業の増加につながると考えています。今後は、我が家の耕作面積及び受託の増加も視野に入れ、作業の効率化を図り、できる限りの対応を行います。

ウ 雇用の確保

なるべく家族労力で行いたいと考えていますが、田植え、稲刈りと一度に作業が集中する時期に、苗運搬、畔草刈、籾運搬等の作業を適期に行うために、季節雇用を中心に雇用の確保を行います。

2) 経営の安定化

米の収入を確保するために、水稻の作付面積の拡大、収量の増加を図ります。

3) 販路の拡大

以前行っていたホームページによる情報発信、また、口コミ等で定期購入の消費者の方もできていますが、さらに個人のお客さんが増えるよう、ホームページの更新作業を進めながら、新たに宣伝を行いたいと思っています。また、大口である小売店とタイアップをし、販路拡大を図りたいと考えています。

	現状 (H23)	H24	H25	目標 (H26)	H27	H28
個人消費者(t)	8	8	8	8	8	8
小売店(t)	29	37	38	42	44	47
合計	37	45	46	50	52	55

3) 農地の確保

なるべく我が家の周りだと考えていましたが、近隣だけではなく、3キロ圏内での耕作も視野に入れ、農業委員会、公社にも協力を得ながら、更なる規模拡大を行います。また、今後も引き続き特別栽培に取組み、環境にやさしい農業を進めながら農地の保全管理に努めます。

4) 受託作業収入の確保

現在、我が家で籾乾燥を行っている方の刈取りが主体になっています。近年、「自分が栽培した米を食べたい」との声を聞きますので、そのような方の刈取りを行い、現在

の3.7haからH26年には4.1haに増やし、受託作業収入を確保します。

4. 具体的な目標

	現状 (H23)	H24	H25	目標 (H26)	H27	H28
面積 (a)	1,030	1,264	1,294	1,334	1,374	1,434
米収入 (%)	100	112	115	125	129	138
受託収入 (%)	100	103	104	104	107	107
梨収入 (%)	100	100	100	100	100	100

5. 具体的な取組内容

項目	H24	H25	H26	支援体制
コンバイン導入	◎			県、町
農地の確保	○	○	○	
雇用の確保	○	○	○	
受託作業の増加	○	○	○	
収量と品質向上対策	○	○	○	普及所ほか

◎はプランで実施。○は本人が主体となって実施。

6. 支援事業の内容

(単位：千円)

事業導入品目	H24	負担割合
水稻コンバイン (4条)	8,282	県 1/3 町 1/6 実施主体 1/2
合計	8,282	

機械・施設の所有状況（平成23年現在）

機械・施設名	導入年度		性能	台数・規模等
トラクター	H21	新	36PS	1台
田植え機	H19	新	4条植え	1台
コンバイン	H19	新	3条刈り	1台
マニアスプレッダー	H19	新	1000t積	1台
畔塗り機	H16	新		1台
ブロードキャスター	H23	新		1台
籾乾燥機	H18	新	35石	2台
籾乾燥機	H20	新	20石	2台
籾乾燥機	H20	中古	16石	1台
籾摺り機	H20	新	4インチ	1台
籾乾燥調製施設	H18	新		1棟 (134 m ²)
倉庫	H20	新		1棟 (54 m ²)
低温貯蔵庫	H20	新	28袋入り	1台
温湯消毒機	H18	新	1回/16kg	1台
色彩選別機	H23	新	h/最大300kg	1台